

第 55 回日本赤十字社医学会総会に参加して

医療技術部 臨床工学技師長 脇田邦彦

2019 年 11 月 17 日～18 日に広島において開催された第 55 回日本赤十字社医学会総会に参加してきました。私は第 47 回の福井開催から連続 9 回目の参加となります。

この医学会は赤十字グループ病院の絆と、赤十字という組織の偉大さを感じることができるため、他の学会に参加するよりも楽しくて勉強になると感じており、毎年楽しみにしております。特に 1000 名近くもの全国の赤十字職員が交流する「医療人の集い」は、同じ赤十字という組織に働く仲間として、地域と職種を超えた絆が強く感じられ、その盛り上がりには目を見張るものがあります。

私は第 1 日目のランチョンセミナーの講師と「臨床工学技士シンポジウム」という 2 時間の企画・セッションで演者、そして 2 日目の本社企画のチーム医療シンポジウムのファシリテーターを務めてきました。臨床工学シンポジウムのテーマは「想定外の出来事を想定内にするための医療安全に役立つシンポジウム」と題して、想定外のアクシデントや、頻度は少ないが生命に直結するような事象に遭遇した経験を披露してもらい、いざという時に備えるというコンセプトです。これら想定外の出来事は情報が少ないため、全く無防備な状態で遭遇することになり、判断を誤ると患者の命に関わる事態となる危険性もあるわけです。

第 53 回の仙台、第 54 回の名古屋開催に引き続き、今回は 3 回目の企画となりましたが、赤十字グループ病院 11 施設から、他では発表できないような想定外の出来事を出し惜しみなく発表して頂き、「想定外の出来事を想定内」として対応できるスキルを共有することができたと思います。討論も大いに盛り上がり、2 時間の持ち時間を目一杯活用した有意義なシンポジウムとなり、参加者は満足したものと自負しております。複数の赤十字病院の院長先生も聴講されておりました。

次回の第 56 回京都開催でも同様のシンポジウムを企画する予定で、日本赤十字社臨床工学技士会のポリシーである「誇りと絆とプライド」を持った活動を活かし、赤十字グループ病院全体の医療安全に役立てていきたいと思っております。

